

A-42 妊娠時のCa代謝に関する実験的研究
(その3) 分娩直後の母体における硬組織のCa含有量

都立立川短大 大山サカエ

1. 本実験は妊娠時におけるCa代謝, Ca必要量に関する資料を得る目的をもって行なったものである。第1報において高Ca, 低Ca飼料でシロネズミを飼育し, 妊娠分娩させた場合, 生下時の仔ネズミのCa含有量には, 有意差が認められないと報告した。Ca摂取量が少ない場合は, 母体のCaが胎児へ移行するといわれるから, 低Ca群でもし母体の蓄積Caから胎仔のCaを供給するものとすれば, 母体のCa含有量は高Ca群より低いと思われるので, 分娩直後の親の硬組織についてCaを測定し, またCa出納についても観察した。

2. 実験動物はWister系シロネズミを用い, 対照, 高Ca, 低Ca飼料の3群に分けて飼育した。飼料中のCa含有量はそれぞれ204 mg%, 961 mg%, 29 mg%である。2~3回妊娠させ, 妊娠末期に尿, 尿を集め, 分娩すれば直ちに親を殺し, 脚の骨(大腿骨および脛骨)および切歯上下4本についてCaを測定した。

3. その結果脚の骨については, 乾燥脱脂骨に対する灰分の比率は, 3群とも60%以上の高い値を示し(クル病係数1以上), 切歯についてはCa/灰分は3群とも35%以上であり, 高Ca群, 低Ca群の間に差異は認められなかった。Ca出納は3群ともバランスは+であり, Ca摂取量の差による影響はみられず, 適応能力の大なることが認められた。